

第2回いろは呑龍トンネル南幹線シールド工事の
漏水対策に係る技術検討委員会 議事概要

開催日時及び場所	平成30年3月19日（月）午後2時～ 京都府流域下水道 乙訓ポンプ場
出席委員氏名	<p>委員長 大西 有三（京都大学名誉教授） 委員 三村 衛（京都大学大学院工学研究科教授） 委員 久保 和幸（国土交通省国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部道路基盤研究室長） 委員 矢野 知宏（地方共同法人日本下水道事業団近畿・中国 総合事務所長）</p>
概要	<p>1 開会</p> <p>2 議事 (1) 漏水及び土砂流入の発生原因について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査の結果、漏水及び土砂流入は、接続部下側において、以下の①から③の工事が不十分であったことが主な発生原因と考えられる。 ① 止水のために南幹線鋼製セグメントの外周に施工するセメントベントナイトが、セグメント周囲の掘込み不足のため、十分な厚さが確保されなかったこと。 ② 止水効果を高めるための防水シート端部の接着処理や水膨張性シーリング材が、計画どおり実施されなかったこと。 ③ 北幹線切り口と南幹線鋼製セグメントとの間の開口を塞ぐための鉄板が、上側には施工していたが、下側には施工していなかったこと。

	<p>(2) 対策工法について</p> <ul style="list-style-type: none">• 提案された対策工法は、セメントベントナイトの厚み及び強度を確保するなど、原因を踏まえて止水や開口部の処理を施すこととしており、基本的に提案工法で進めることでよい。• 地上の道路復旧は、路体等、地盤の緩みの範囲をボーリングで確認した上で、道路管理者と協議して復旧方法を検討すること。
--	---